

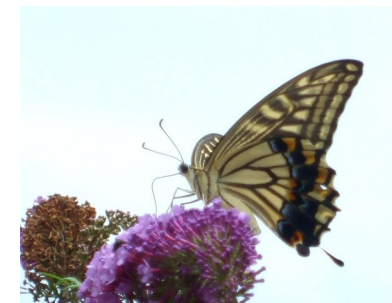
生態園マップ～2025春編～

きせつ
＜季節のできごと＞

しろいろ ももいろ あかむらさきいろ きいろ
白色（シロツメクサ、カラタチなど）や桃色・赤紫色（カラスノエンドウ、ホトケノグサなど）、黄色（セイヨウタンポポ、カタバミなど）、青紫色（オオイヌノフグリ、フジなど）カラフルな彩りの春の草花や、樹木の花がたくさん咲いています。



アゲハ（ナミアゲハ）



にほん もっと ゆうめい
アゲハは日本で最も有名なアゲハチョウの一種です。大きさは40～60mmで、春から秋にかけてみることが出来ます。成虫は全体が薄い黄色と黒で、後ろばねに青やオレンジ色の模様があり、力強く滑らかに飛びまわります。

せいたい えん ようちゆう す
生態園には幼虫が好きなミカン科のカラタチの木があり、成虫の好きな彼岸花が咲きます。アゲハに会えるかもしれません。是非、散策してみてください。



CESSチャンネル (Youtube)

生態園についても配信

新 緑

かぜかおる さわ き せつ しんりよく うつく むか いきお の く さ き しんめ せいめい
風 薫る爽やかな季節となり、新緑の美しいシーズンを迎えました。勢いよく伸びる草木の新芽に、生命の力強さを感じます。

ミズキ(水木)

みずべ おお せいいく らくようこうぼく たか
水辺に多く生育する落葉高木で、高さ10
～20mになります。全国どこでも見られ
るので、植物の季節を調べるときの指標
植物になります。実は鳥に食べられ、
しゅし みしょうか はいしゅつ ぶんぶ
種子が未消化のまま排出されて、分布を
ひろ じゅえき おお そうしゅん えだ き
広げます。樹液が多く、早春に枝を切る
みず したた お みずき
と水が滴り落ちることから、水木(ミズ
キ)と名付けられました。



フジ

せい じゅけい こうぼく ま つ うえ たつ
つる性の樹形で、高木に巻き付いて上まで達
します。
がつげじゅん がつ えださき おお ふさ
4月下旬～5月になると、枝先に大きな房が
た さ ちょう かたち はな たすう
垂れ下がり、蝶のような形の花が多数つき
ます。上の大きな花弁は、花を訪れる昆虫
うえ おお かべん はな おとず こんちゅう
の目印になっていて、下の花弁は虫が止まる
めじるし した かべん むし と
とその重みで下がり、雄しべや雌しべが虫の
からだ ふ じゅふん し く
体に触れて受粉する仕組みになっています。

黄色の花といきもの

じ き きいろ はな めだち こんちゅう きいろ いろ びんかん
この時期は黄色の花が目立ちます。昆虫は黄色の色に敏感といわれています。昆虫に花粉を運んでもらうことで
じゅふん ちゅうばいか はな いろ かたち かお みつ こんちゅう さそ ひと み しがいせん こんちゅう くら み はな
受粉する虫媒花の花は、色や形、香りや蜜で昆虫を誘います。人には見えない紫外線が昆虫には暗く見えるため、花
ね お いろ こ ちゅうしん みつ おし みつひょう い
びらのつけ根に向かってだんだん色を濃くし、中心に蜜があることを教えます(ネクターガイドや蜜標と言います)。
みつ さそ こんちゅう だいひょうかく
チョウは、蜜に誘われる昆虫の代表格です。

テングチョウ



かお さき てんぐ とが
顔の先が天狗のように尖っている
なかま
タテハチョウの仲間です。
せいちゅう ふゆ こ こたい あたた
成虫で冬を越した個体が、暖
じ き すがた あらわ
かくなったこの時期に姿を現
します。

ツバメシジミ



み みずいろ ちい
よく見かける水色の小さなシ
いっしゅ うしろはね
ジミチョウの一種。後翅にあ
おじょうとっき お
る尾状突起がツバメの尾のよ
み なまえ ゆらい
うに見えることが名前の由来
です。

ヒオドシチョウ



あざ いろ うつく
鮮やかなオレンジ色が美しい
なかま
タテハチョウの仲間。「ヒオド
ぶ ぐ よろい
シ」とは、武具の鎧の緋緞
もよう
(ヒオドシ)の模様にちなむそ
うです。